どんぐりの森通信　第28号　2015年12月

『平岡どんぐりの森』は札幌市の平岡公園・東部緑地周辺をフィールドに、地域の身近な自然に親しむ活動をしているグループです。平岡公園の湿地や池、東部緑地の林や大曲川の水辺、アオサギのコロニー（集団営巣地）がある森など、身近に残っている自然を楽しみながら、地域の自然環境を見守る目を増やしていきたいと観察会や生きもの調査などの活動を続けています。

平岡公園での定期的な自然観察会は、小学生の親子を中心にした「**ながぐつの土曜日**」を4月～10月の毎月第3土曜日に、樹木を中心に四季の移り変わりを観察する「**平岡公園ツリーウオッチング**」を5月～11月の第3水曜日に、いずれも公園管理事務所と共同で開催しています。事前の申し込みは不要です。どなたでもお気軽にご参加下さい。

会報「どんぐりの森通信」第 28号では、2015年春～秋の活動報告をお届けします。

◆◆　春の 平岡公園　◆◆

4月18日（土）　*ながぐつの土曜日*　飛び出せ！春のたんけんたい　（参加者76名）

青空の下に雪解けがすすんで、早春にしては暖かい一日になりました。春を待ちかねた子供たちの元気な声と笑顔が、集合場所の平岡公園第1駐車場にあふれます。酪農学園大学の先生と学生スタッフ、公園管理事務所の職員も集合して、隊長のゆうさん（佐藤祐一・自然観察指導員）を先頭に梅の香橋を渡って出発です。

春一番の白い**キタコブシ**の花が咲き、ヤナギが薄緑に色づき始めた湿地では**ミズバショウ**があちこちで開花しています。

毎年4月のながぐつの土曜日の『目玉』はカエルの卵です。今年は3月末には**エゾアカガエル**の産卵が始まり、池や湿地周辺のあちこちに卵塊が見られました。子どもたちは手を水で冷やしてから、バケツに入れた卵塊をそっとすくってみます。卵に触るのは初めてという子もいて、ぷるぷるした手触りにびっくりしたり、喜んだり。「1匹のお母さんカエルは何個の卵を産むの？」「いつ頃オタマジャクシになるの？」次々に質問が飛び出していました。

5月16日（土）　*ながぐつの土曜日*　若葉の森たんけんたい　（参加者50名）

梅林の花は早くも散って、公園は緑に包まれてきました。遊歩道わきの草むらには**オオイヌノフグリ**や**ヒメオドリコソウ**が満開です。**ミヤマザクラ**や**アオダモ**は開花しましたが、目覚めの遅い**イヌエンジュ**はやっと若葉が伸び始めたところです。人工湿地では**ミツガシワ**が咲いて、**エゾアカガエル**の**オタマジャクシ**がたくさん泳いでいました。そして、産卵時期の遅い**トノサマガエル**の卵があちこちに見えます。本州から人の手で運び込まれたと推定される**トノサマガエル**。北海道の在来種の**エゾアカガエル**などへの影響が心配されています。外来種の問題については参加者にも一緒に考えてもらいたいと、研究者・学生スタッフと共に分かりやすい説明に努めています。